

感染症流行予測調査（日本脳炎感染源調査）

【保健衛生室】

齋尾美春

1 はじめに

感染症流行予測調査事業は、厚生労働省の委託による事業で、集団免疫の現状把握及び病原体の検索等の調査を行い、各種疫学資料と併せて長期的視野に立ち、総合的に疾病の流行を予測する事を目的としている。19年度、国立感染症研究所との連携のもと、感染源調査として、日本脳炎ウイルスの増幅動物である豚の血清中日本脳炎ウイルス抗体価を赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）法により測定し、間接的に日本脳炎ウイルスの流行状況を調査したので報告する。

2 調査方法

1) 調査期間 平成19年7月から9月中旬

2) 材料

県内のと畜場に出荷された肥育豚(生後約6ヶ月)を対象とし、1回10頭、合計8回80頭の採血を行った。

3) 方法

常法に基づき、HI法を用いた豚血清中の抗体価測定を行い、判定が1:10以上を陽生と

した。

さらに、1:40以上の場合には、2ME感受性試験を行いIgM抗体価の確認を行った。

3 結果及び考察

表に示すように8月16日に採血した豚血清中のHI抗体価陽生率が80%と最高値であった。9月13日に採血した血清では、HI抗体価陽性3頭のうち、2頭がHI抗体価1:40以上を示し、そのうち1頭から2ME感受性抗体陽性で、新鮮感染を確認した。

4 まとめ

8月から9月にかけて日本脳炎ウイルスに感染している豚が存在したことは、感染蚊による活動があったことが推測された。日本脳炎ワクチンを接種されていない方や乳幼児は蚊に刺されないよう注意が必要である。

平成19年度日本脳炎感染源調査結果

採血日			検査頭数	HI抗体価						HI抗体保有率(%)	2ME感受性試験		
年	月	日		<10	10	20	40	80	160		320	640	HI陽性
2008	7	4	10	10							0 %	0	
	7	12	10	8	1	1					20 %	2	
	7	26	10	10							0 %	0	
	8	2	10	6	3	1					40 %	4	
	8	16	10	2	5	2	1				80 %	8	
	8	23	10	4	4	2					60 %	6	
	9	6	10	8	2						20 %	2	
	9	13	10	7	1					2	30 %	3	1
	合 計		80	55	16	6	1			2	31.3 %	25	1